

指導資料

総合的な探究の時間 第16号

鹿児島県総合教育センター
令和2年4月発行

対象
校種

高等学校 特別支援学校



生徒の学びを深める総合的な探究の時間 — 探究で生徒が変わる —

高等学校では、平成30年3月に新学習指導要領が公示され、「総合的な探究の時間」が、平成31年4月1日以降の入学生から実施されている。新学習指導要領において、高等学校では「探究」がキーワードとなり、「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」（以下「総探の時間」という。）へと名称が変更になった。そこで、名称変更になった背景や指導のポイントを示す。

1 「総探の時間」とは

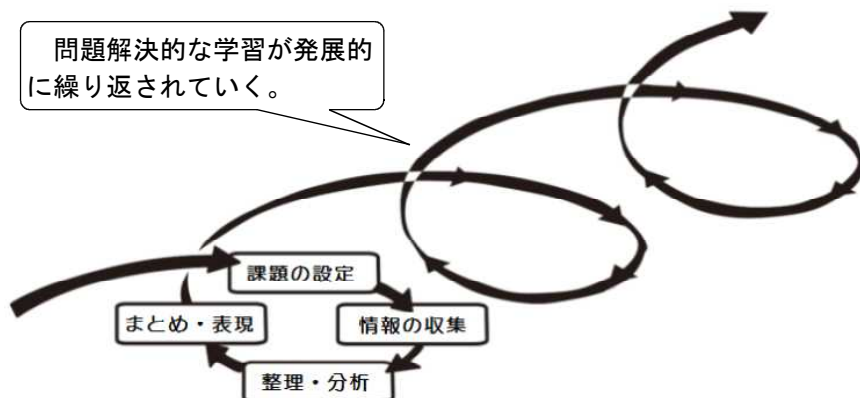
「総探の時間」は、どのような時間となったのですか？

生徒の資質・能力を育成するために、各学校で定めた「総探の時間」の目標の実現を目指し、横断的・統合的な学習に取り組んでいきます。



具体的には、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を生徒自身が発見し、その解決に向けて取り組んでいきます。そのとき、生徒は、探究の過程（図1）を発展的に繰り返していくことで資質・能力を身に付けていきます。

問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく。



■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

(注)

生徒の取組の中で必ずしもこの過程の順序ではなく、順序が入れ替わったり、ある過程が重点的に行われたりすることがある。

図1 探究の過程（探究における生徒の学習の姿）

(文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説 総合的な探究の時間編』より転載)

2 「総探の時間」に名称を変更した理由

「総探の時間」に名称が変更になったのはどうしてですか？

なぜ今、「探究」なのですか？

1点目は、小・中学校より、探究の過程を高度化させたり、探究を自律的に行わせたりすること。
2点目は、より探究的な活動を重視すること。
この2点などから、教育課程上の位置付けを明確化するため、名称を変更しました。

- 高度化とは
- ・ 目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）
 - ・ 幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）
 - ・ 適切に資質・能力を活用している（効果性）
 - ・ 焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性） など

生徒を待っている社会は、必ずしも答えのある社会とは限りません。むしろ答えのない社会が待っています。



OECDが実施するPISAの調査で探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にあります（図2）。

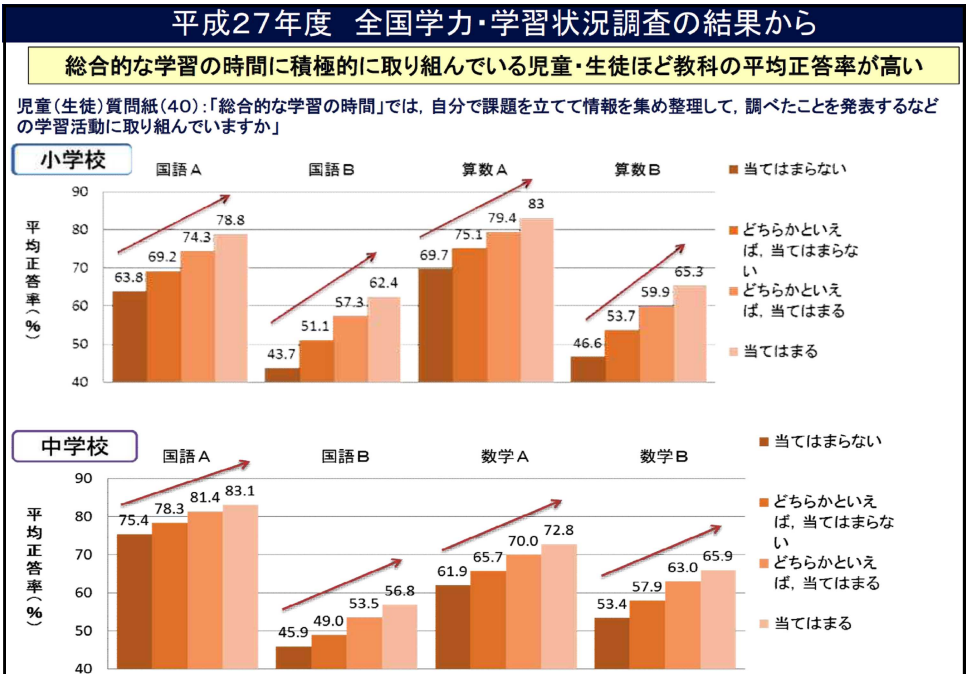
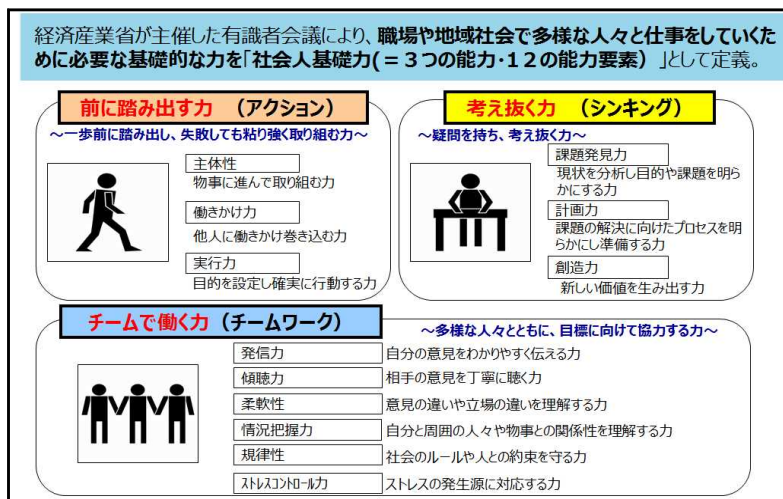


図2 全国学力・学習状況調査の結果（平成27年度実施）
文部科学省 教育課程部会（第107回）配付資料『資料2-1 総合的な学習の時間の成果と課題について』より転載

3 社会が求めている力、生徒に身に付けさせたい力

生徒が社会で活躍する時代は、少子高齢化による生産年齢人口の減少や人工知能（AI）等の科学技術の進歩により、予測困難な社会が待っているとされている。そのような変化の激しい社会において、これまでのように、与えられた仕事を手際よくこなすことも必要ではあるが、それだけではこれからの時代は対応できない。社会が求めている力、そして生徒に身に付けさせたい力としては、社会がイノベーション人材を求めていること等も鑑みると、**価値観の異なる人とも対話ができるコミュニケーション力**や**物事に積極的に取り組む力**、**多様な人と協働する力**、**課題を発見し解決する力**、**考えを表現する力**などがある。それらの中で特にコミュニケーション力が必要ではないかと考える。それは、コミュニケーション力により、多様な人々と互いに意見し、高め合うために協働することができ、課題を解決したり新たな考えを生み出したりすることができるからである。

図3は、経済産業省が提唱している「社会人基礎力」を示している。これは、社会人に必要なスキルで、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義され、三つの能力と12個の能力要素が示されている。参考にしてほしい。



4 指導のポイント

図3 社会人基礎力

(経済産業省『人生100年時代の社会人基礎力』説明資料より転載)

「総探の時間」を効果的に行うための指導のポイントを探究の過程に沿って示す。

① 課題の設定

最も重要な過程である。課題は、問題をよく吟味して生徒自身でつくり出させること。課題に関することを幅広く調べたり、一人でじっくりと考えたり、様々な考えをもつ他者と相談したりするなどして、行きつ戻りつしながら時間をかけて取り組ませる。

グループ等で設定する場合も、一人一人が**切実な課題**になるようにする。生徒自身が設定した課題は、生徒が真剣に取り組む。**教師が指導しやすい課題に安易に替えないこと。**

② 情報の収集

インターネットや本だけの情報ではなく、実際に相手を訪問し、見学や体験をしたりインタビューをしたりするなど、**直接体験を重視**した方法を積極的に取り入れる。感覚的な情報だけではなく、**数値化された客観的な情報も幅広く収集**させる。

③ 整理・分析

「**考えるための技法**」を意識的に活用させ、自在に活用されるようにする(表)。また、その際、図や表などの**思考ツール**も活用させる。**教科・科目等の授業で事前に扱う**とよい。

表 「考えるための技法」の例

| | |
|-------|----------------------------------------------------|
| 順序付ける | 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並べ替える。 |
| 比較する | 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。 |
| 関連付ける | 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。 ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。 |

※ 他にも「分類する」、「多面的に見る・多角的に見る」、「理由付ける」など

④ まとめ・表現

まとめや表現の手法が変わるため、**相手意識や目的意識を明確**にしてまとめさせたり、表現させたりする。学年内だけではなく、他学年・他学科の生徒の前や**外部のコンテスト、研究大会等**を活用し発表させることで、様々な視点からの質問や助言があり、内容を修正・深化できる。また、他人の発表もしっかり聞かせることで、自分の内容への気付きがある。

先生方は、全ての専門家ではない。アドバイザーとして良きアドバイスを！「棒グラフの他に円グラフもあるよ。」
「根拠が弱いね。」 など

各学校の「総探の時間」の目標は、「総探の時間」の第1の目標と各学校の目標を踏まえて定めるため、各学校で育てたいと願う生徒の姿や育成すべき資質・能力などが示されている。そのため、「総探の時間」がカリキュラム・マネジメントの中核になる。年間指導計画を工夫した図4のような単元配列表を作成することで、各教科・科目等で学ぶ学習内容等を把握でき、「総探の時間」と各教科・科目等との関連を捉えることができる。

| 各教科等 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|--------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 国語 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | 単元⑥ | 単元⑦ | …… | 単元⑩ | | | |
| 数学 | 単元 | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 英語 | 単元 | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 化学 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 総合的な探究の時間 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 特別活動 | 活動① | 活動② | 活動③ | 活動④ | 活動⑤ | 活動⑥ | 活動⑦ | …… | 活動⑩ | | | |
| 情報 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 音楽 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 美術 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 保健体育 | 単元① | 単元② | 単元③ | 単元④ | 単元⑤ | …… | 単元⑩ | | | | | |
| 経営 | 学級/学年 人をつなぐ 家庭/地域/企業 暮らしをつなぐ | | | | | | | | | | | |

図4 単元配列表

(東洋館出版社 田村学編著『カリキュラム・マネジメント入門』を基に作成)

5 「総探の時間」の効果

探究に取り組んできた生徒は、**自分自身で課題を発見し、解決する力**が身に付く。また、解決する中で、**社会問題への関心**が高まったり、**多様な視点から根拠をもって回答**したりする生徒が増える。さらに、他者と協力して解決したり、他者の考えを批判的に聞くことによって新たな考えが生まれたりして、**他者と協働することの大切さに気付く**。

教科・科目等の学習においても、「総探の時間」を通して生徒が身に付けた問題発見・解決能力等を生かし、これまで基礎的な知識を習得し、それを活用していた学習から、自ら疑問をもち、その疑問を解決するために自分自身で調べ、解決していく探究活動が展開されるようになることが期待できる。

「総探の時間」は、実社会や実生活における複雑な文脈の中にある事象を対象としている。そのため、普段から**実社会や実生活に目を向けるようになり、課題を発見し、解決していくようになる**。実際に、「もっと知りたい」、「もっと研究したい」という気持ちが生じ、関連する大学に進学したり、関連する仕事に就いたりするなど自分の進路を決めた生徒もいる。探究に取り組んでいる学校では、このような生徒が育っている実態がある。

6 最後に

私たち教師の授業改善も、P D C Aサイクル一周で終わりではない。授業後に課題を見付け、仮説を立て授業をし、少しずつ改善していき授業力を身に付けていく。このように、生徒も「総探の時間」を通して、知識や技能が増大し、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力もより高度なものになっていき、よりよく課題を発見し、解決していくようになる。

卒業後の人生において、生徒が予測困難な社会にも対応できる資質・能力を身に付けさせることができるよう、また、学校の教育目標を実現させることができるよう学校全体で取り組んでいくことが大切である。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』平成30年
- 東洋館出版社 稲井達也著『高校授業「学び」のつくり方』2019年
- 一藝社 田口哲男著『高校における学びと技法』2019年
- 東洋館出版社 田村学編著『カリキュラム・マネジメント入門』2017年
- 経済産業省HP『人生100年時代の社会人基礎力』説明資料

<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> (令和2年3月18日アクセス)

(教科教育研修課 森田 忠和)